



証券コード:7707

# PSS 第2四半期決算説明会

---

PSSは、本年2月28日、上場10周年を迎えることができました。  
皆様からの格別なるご支援に対し、社員一同、心より感謝申し上げます。

2011年3月4日

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

*URL: [www.pss.co.jp](http://www.pss.co.jp)*

# Contents

---

## I. 当期(第26期)第2四半期業績概況

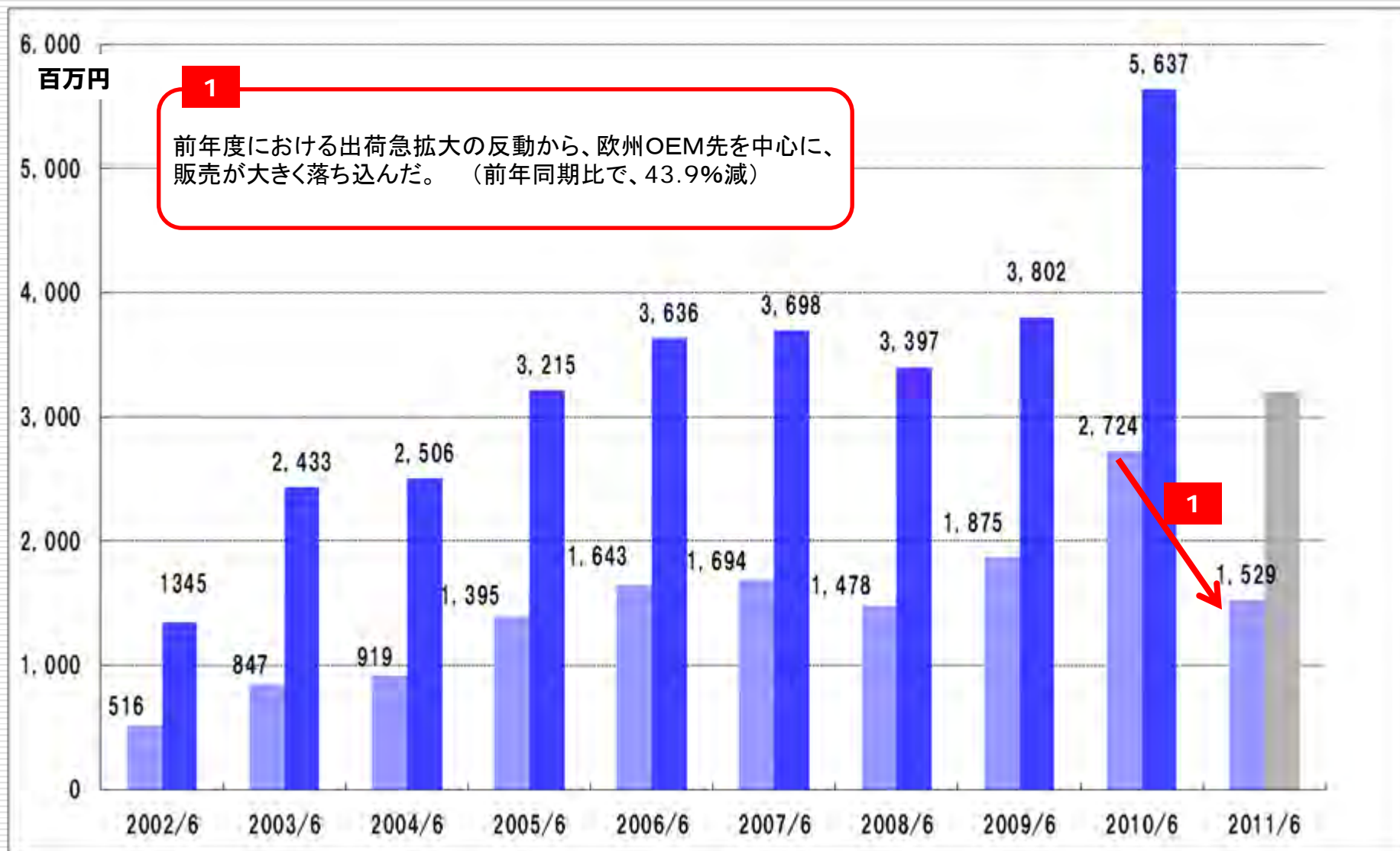
## II. バイオ市場の進展とPSS事業施策

- 診断市場・分子診断市場の成長予測
- PSSの全自動解析装置
- PSS技術の遺伝子検査応用例(PGx)
- 多様化する市場ニーズへの対応

# I-1. (第26期第2四半期)決算概況

- **(販売低迷)** 前期(第25期)、新型インフルエンザ向け遺伝子検査需要が高まり、装置、消耗品の販売が急拡大したことの反動から、今期売上が大きく減少した。期初の業績見通し達成が困難なことから、上半期、通期ともに予想を下方修正。欧州OEM先で、過剰在庫が発生、調整に時間を要した影響が大きい。
- **(今後の見通し)** 今後は、製品ごとに差はあるものの、第2四半期を底に、販売の回復が見込まれている。
- **(米国向けは好調)** 欧州向け販売が低迷した一方、米国OEM、三菱化学メディエンス向け、及び自社販売が拡大。米国向けは上半期として、過去最高の販売実績。
- **(新事業分野での展開)**
  - ①全自動解析装置開発の進捗、②新規自動化装置開発案件、③次世代シーケンサー前処理での提携、④インドにおける抽出試薬製造等

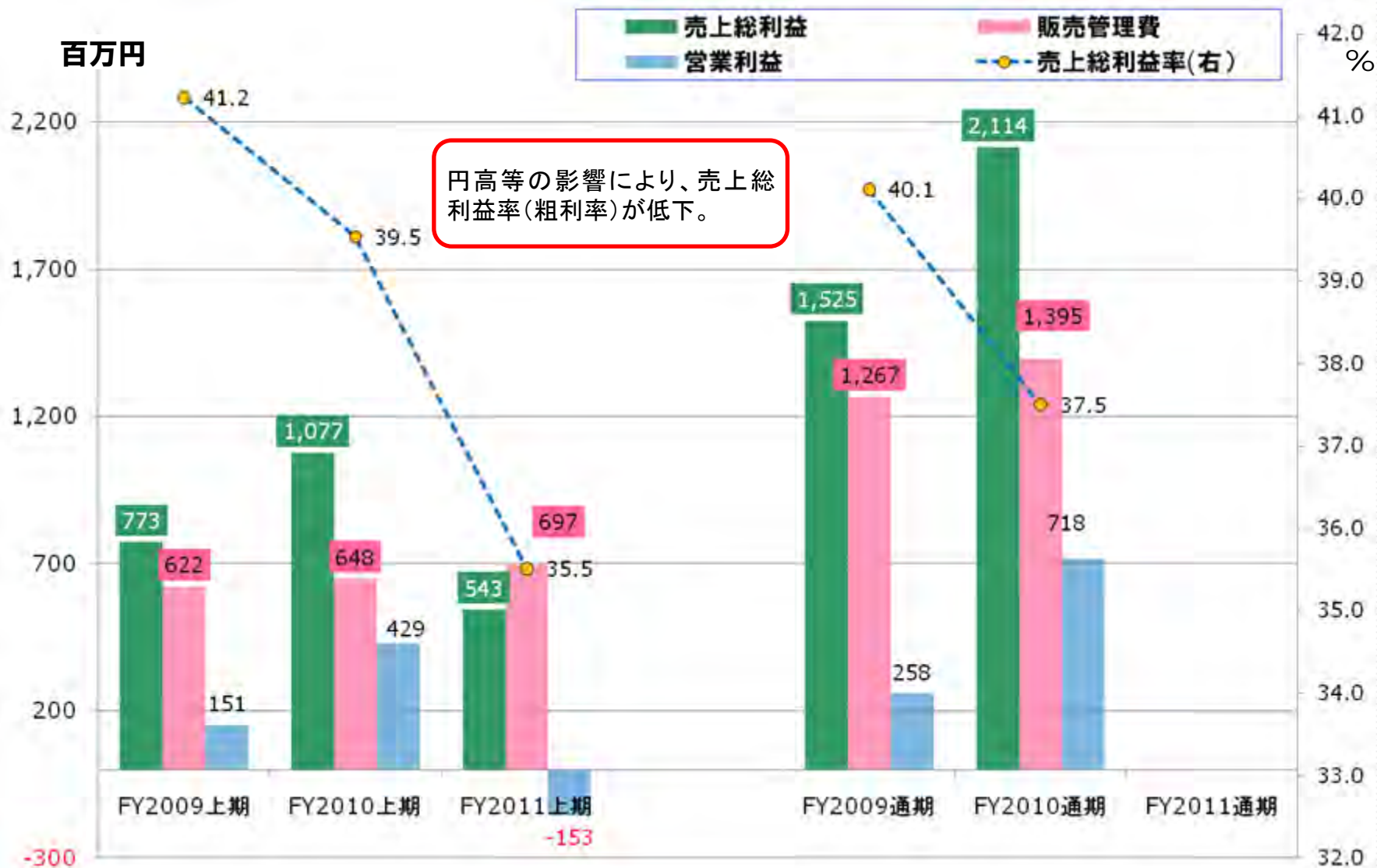
# 1-2.売上高推移(上期・通期)



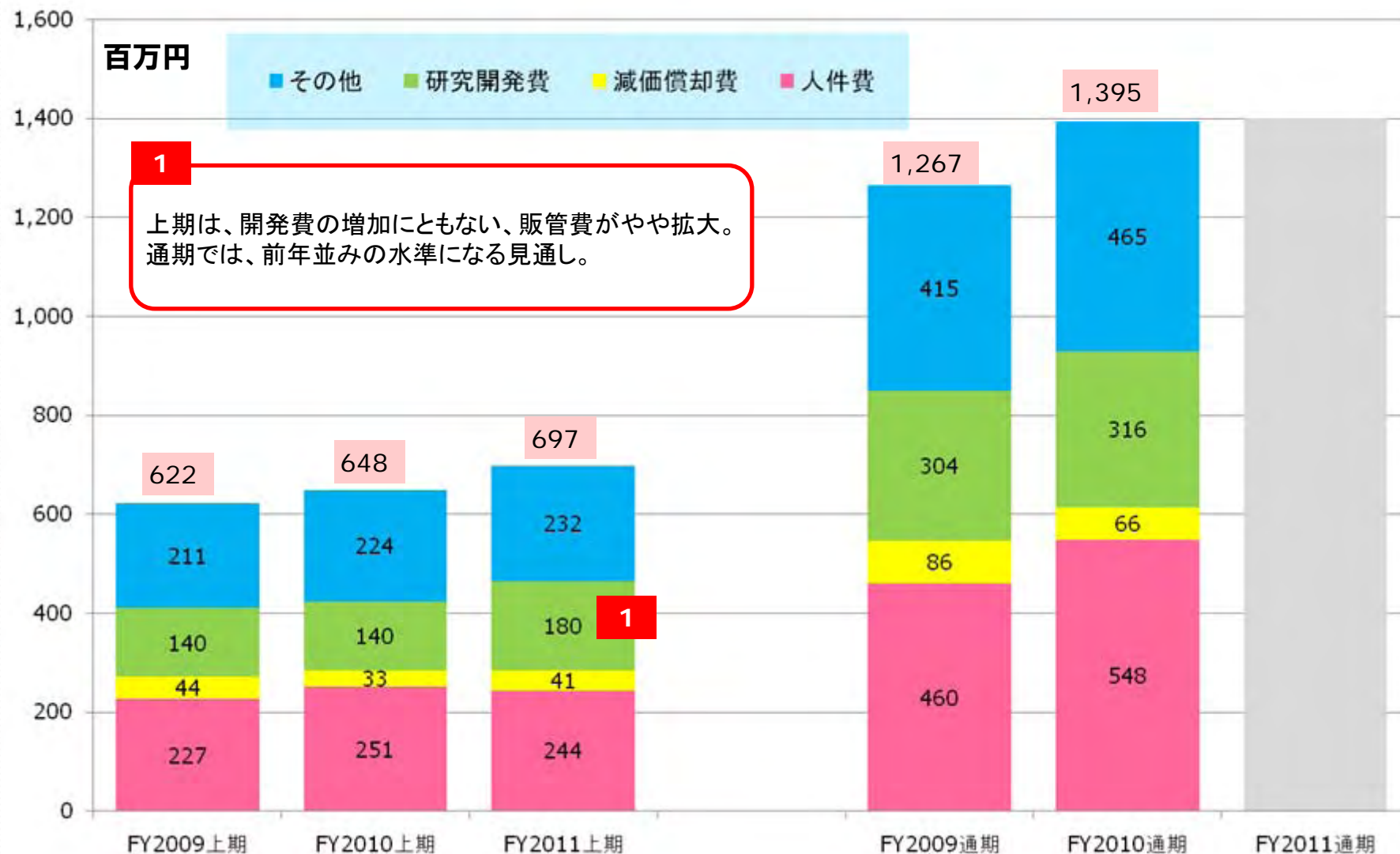
# 売上高推移(上期・通期) + 装置出荷数



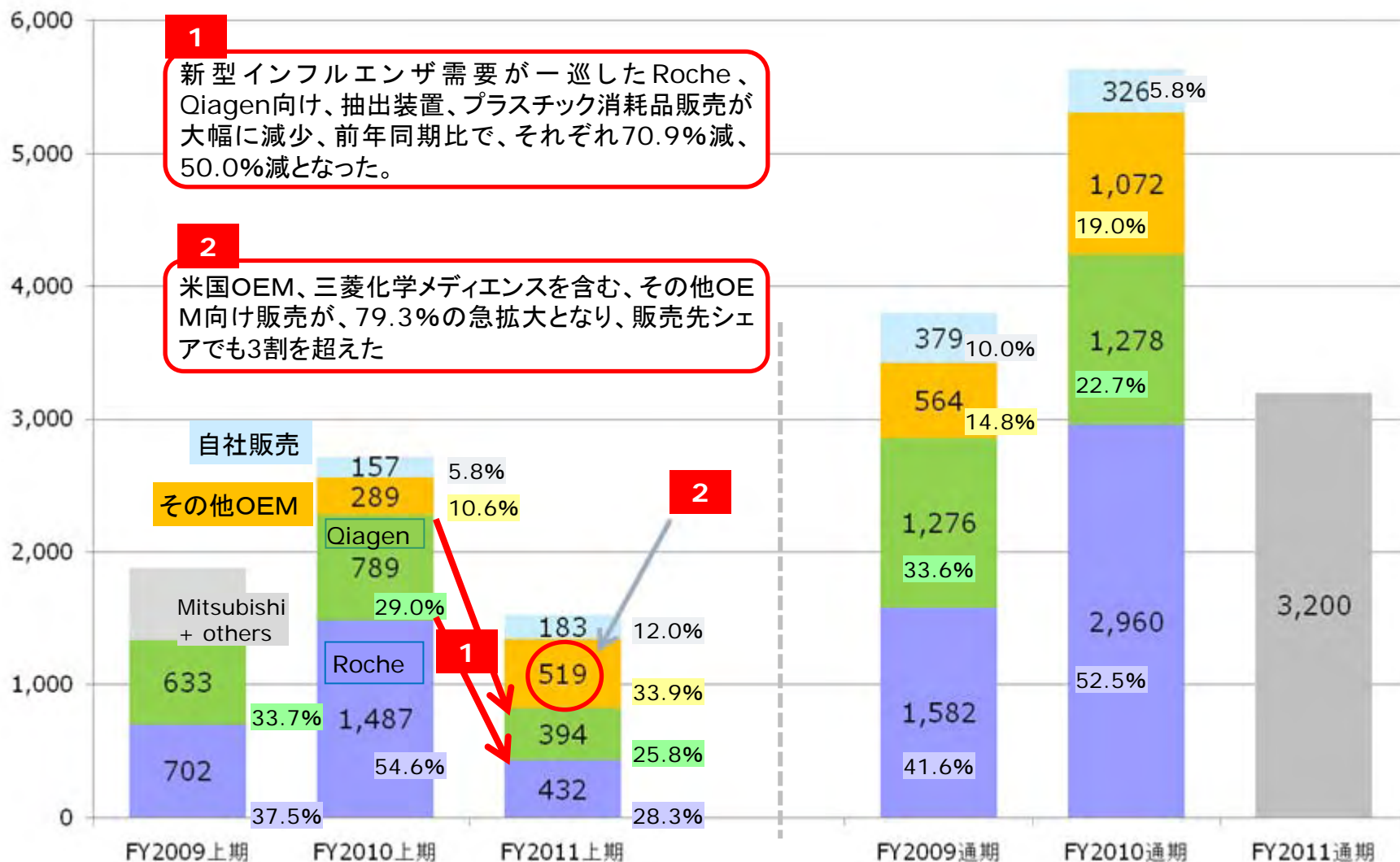
# I-3. 売上総利益・販売管理費・営業利益



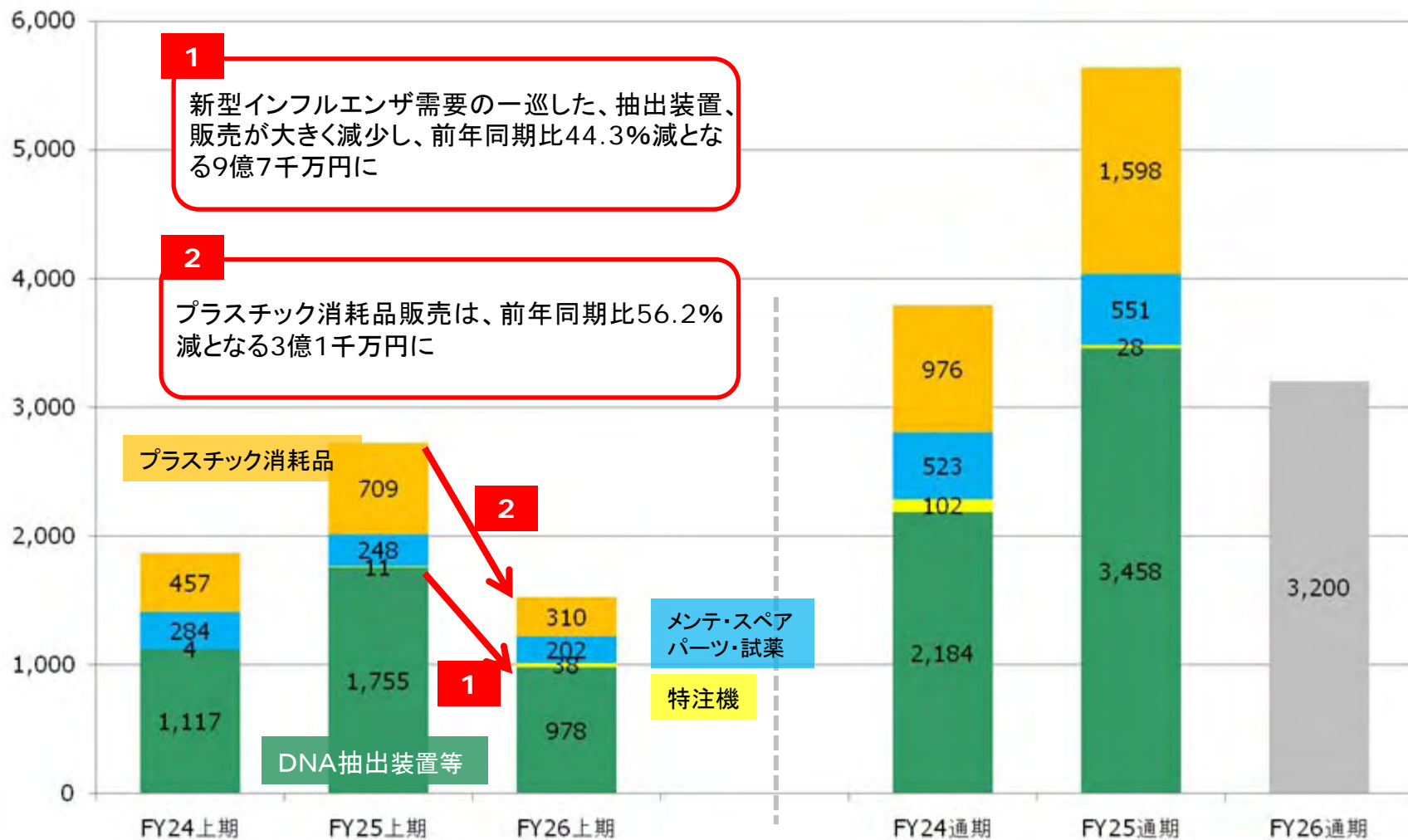
# I-4. 販売管理費内訳



# 1-5. 取引先別販売状況(上期・通期)



# 1-6. 製品区分別販売状況(上期・通期)



# I-7. PSS 主要3社実績

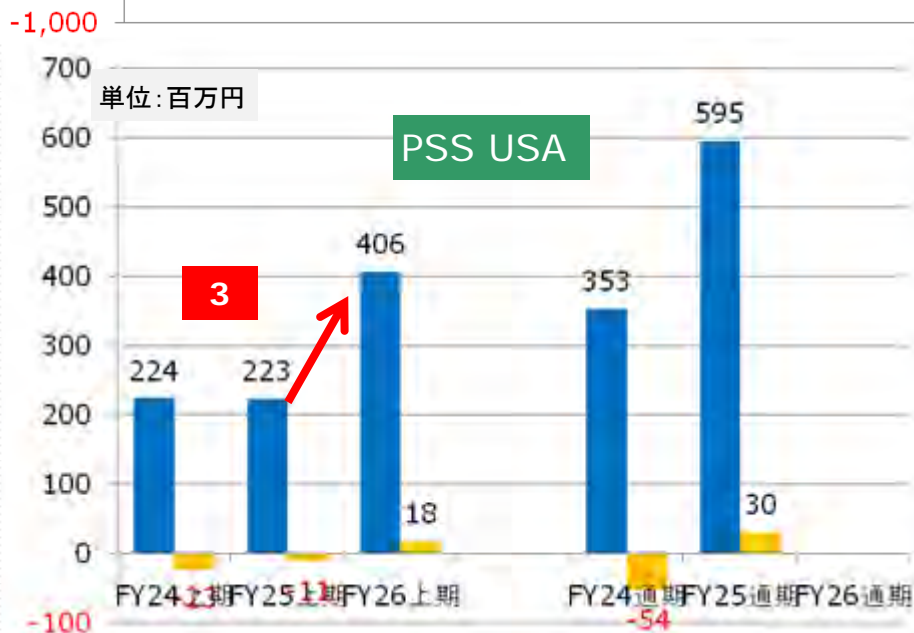
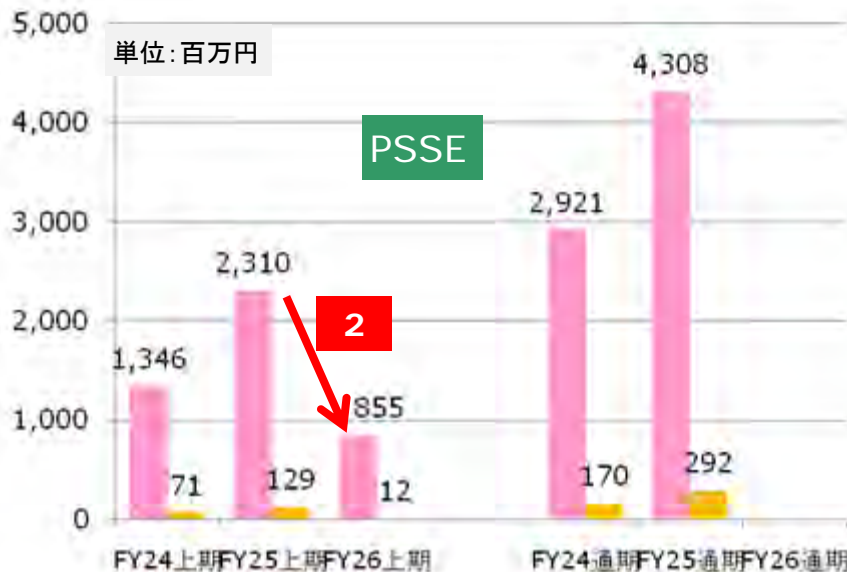
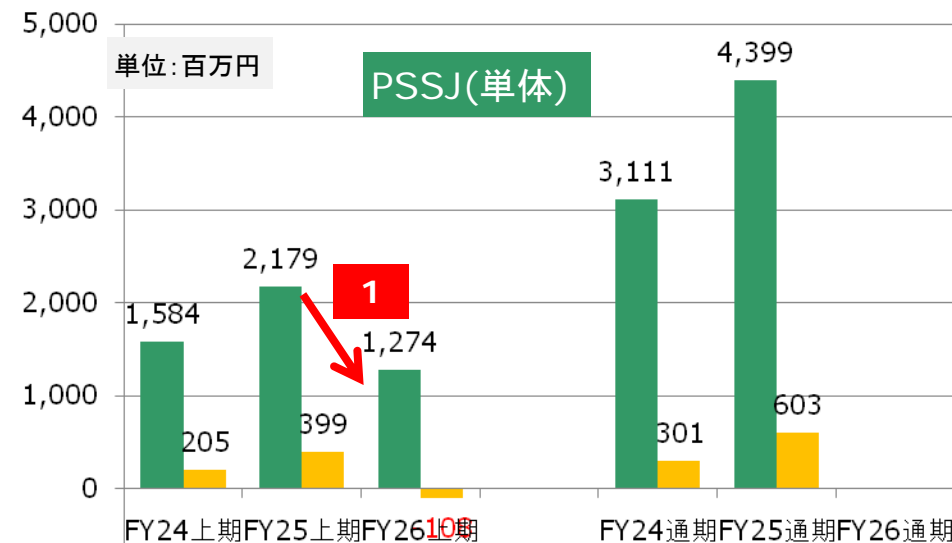
## 売上高&営業利益

1 2

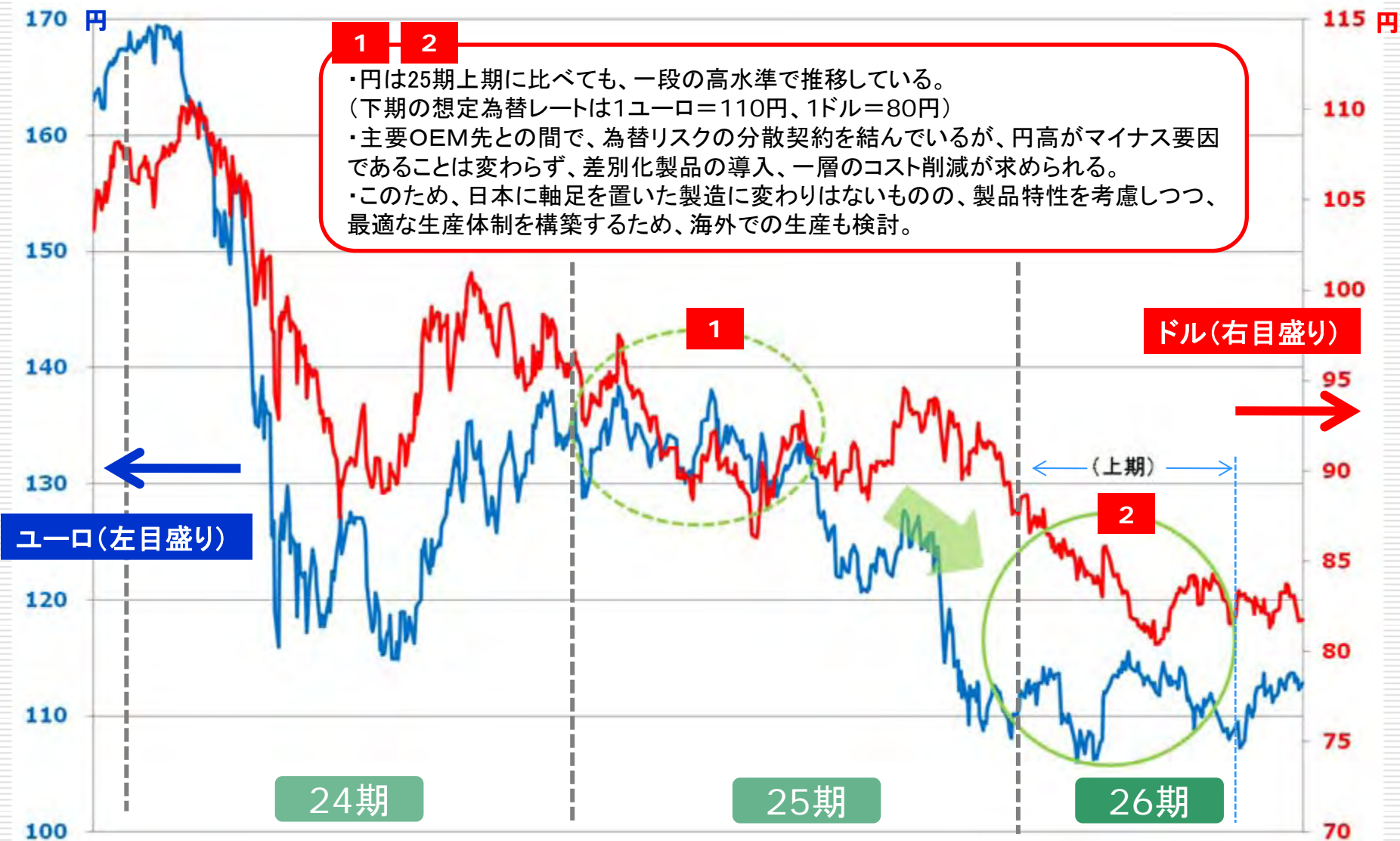
欧州OEM向け抽出装置、プラスチック消耗品販売が大きく落ち込んだ影響で、PSSJ、PSSEの売上高が大幅に減少、PSSJは営業赤字に、PSSEの営業黒字も縮小した。

3

一方、ライフテクノロジーズ社、ベックマンコールター社、ナノストリング社など米国OEM向け出荷の好調なPSS USAは業績を拡大、上期では初の営業黒字を計上した。



# I-8. ユーロ/円、ドル/円推移



# I-9. 第2四半期業績と通期業績見通し

## 第2四半期業績（2010年7月1日～2010年12月31日）

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2011年6月期第2四半期(A)	1,529	-153	-162	-158	-1,731.32円
2010年6月期第2四半期(B)	2,724	429	409	363	8,495.09円
増減率(B)/(A)	-43.9%	----	----	----	----
期初業績予想(8月13日)	2,200	90	80	50	547.89円

## 通期業績（2010年7月1日～2011年6月30日）予想

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2011年2月4日予想修正(A)	3,200	-260	-280	-260	-2,849.00円
前期(2010年6月期)(B)	5,637	718	653	549	12,647.69円
増減率(B)/(A)	-43.2%	----	----	----	----
期初業績予想(8月13日)	4,400	180	160	100	1,095.77円

■ 下期の為替レートは、1ユーロ=110円、1ドル=80円で算定

---

## II. バイオ市場の進展とPSS事業施策

II-1. 診断市場・分子診断市場の成長予測

II-2. PSSの全自動解析装置

II-3. PSS技術の対象となる遺伝子検査応用例(PGx)

II-4. 多様化する市場ニーズへの対応

## II. バイオ市場の進展とPSS事業施策

---

### 現状認識

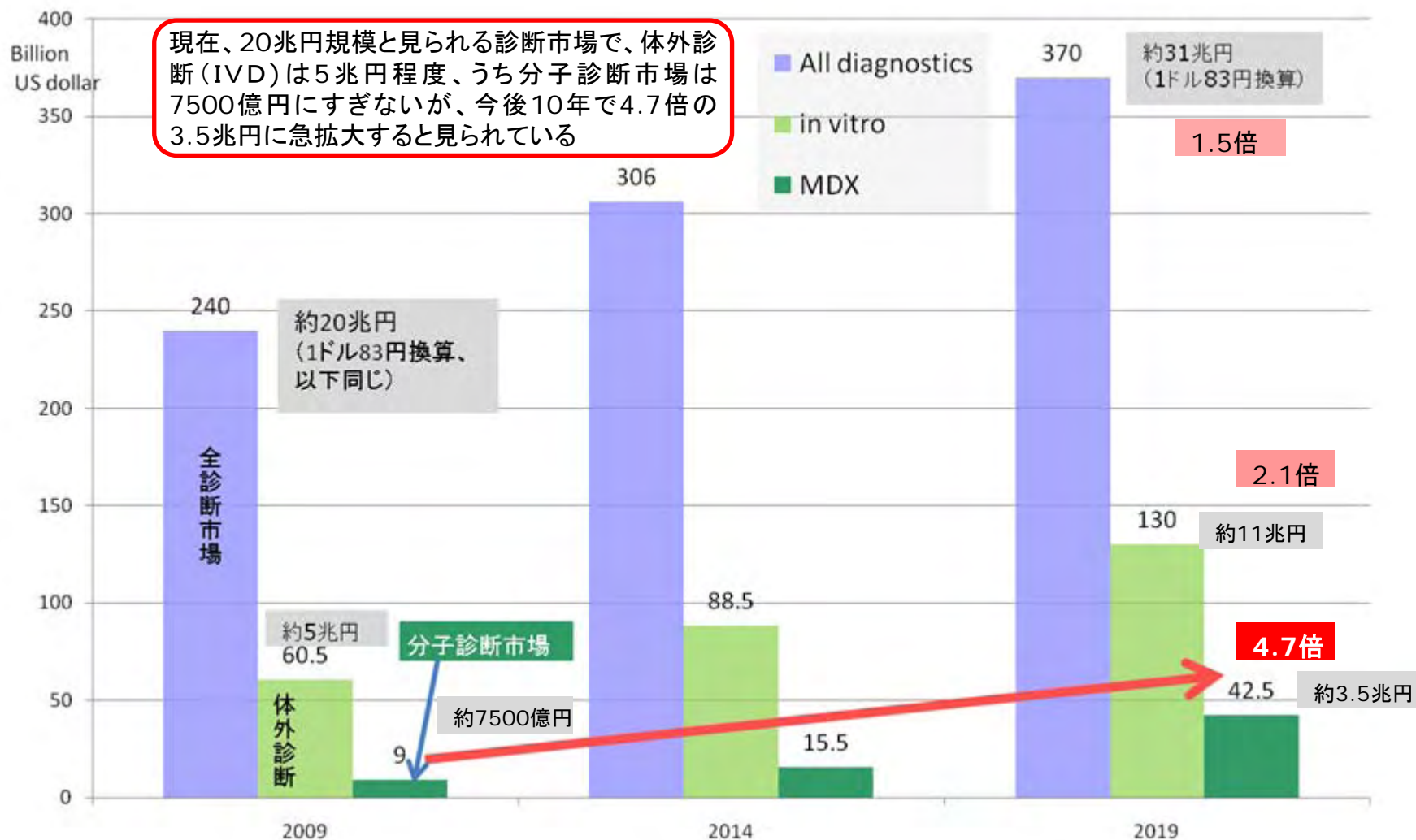
■ **(成長市場)** PSSのターゲット市場である体外診断市場は、今後10年間で2倍以上の成長が見込まれている。中でも、分子診断市場は、10年で4倍以上の急成長が期待されている。

■ **(全自動化の潮流)** PSSは、一貫して自動化を追求してきたが、最近、欧米先進市場で、全自動解析装置の出展が相次ぐなど、「自動化」が、明らかな潮流、現実であることを確認。

■ **(PSSの優位性)** 他社の自動化装置には、それぞれ弱点もある。PSSの全自動解析装置は、信頼性の高いMagtration技術による自動化思想をベースにしており、取引先からの評価、期待も高く、十分な勝算がある。

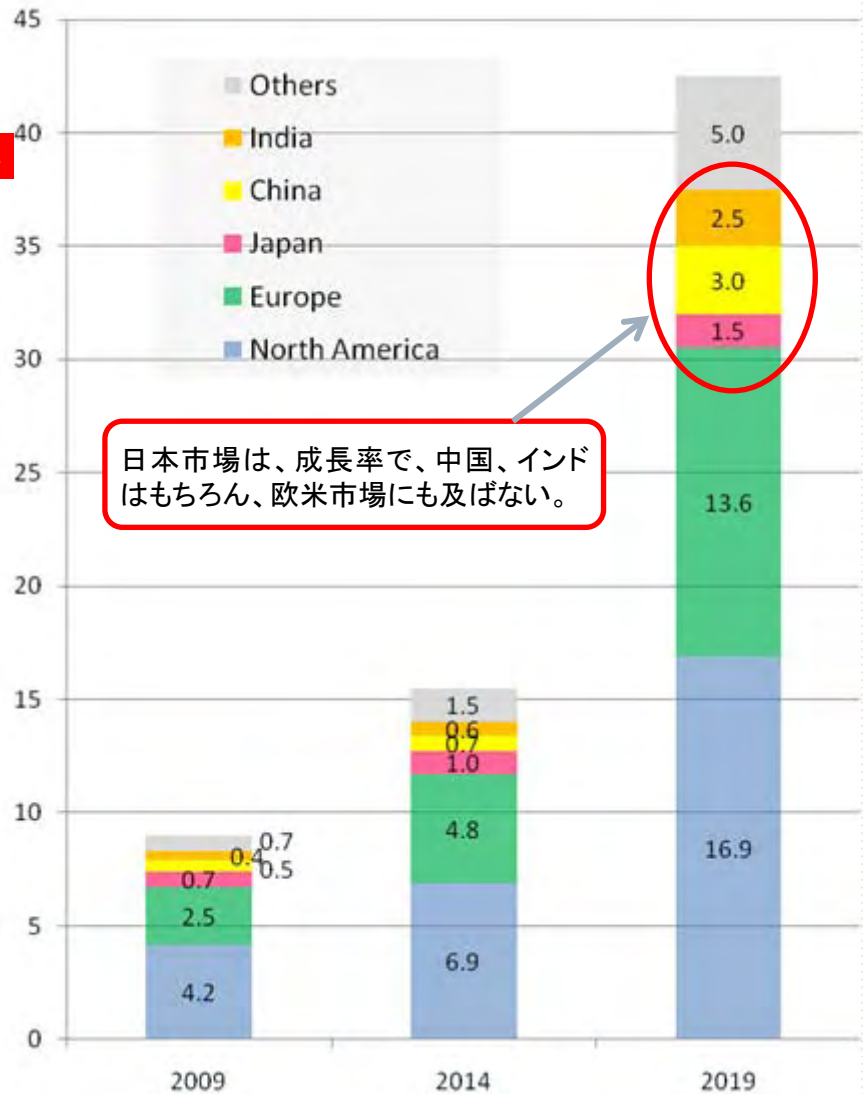
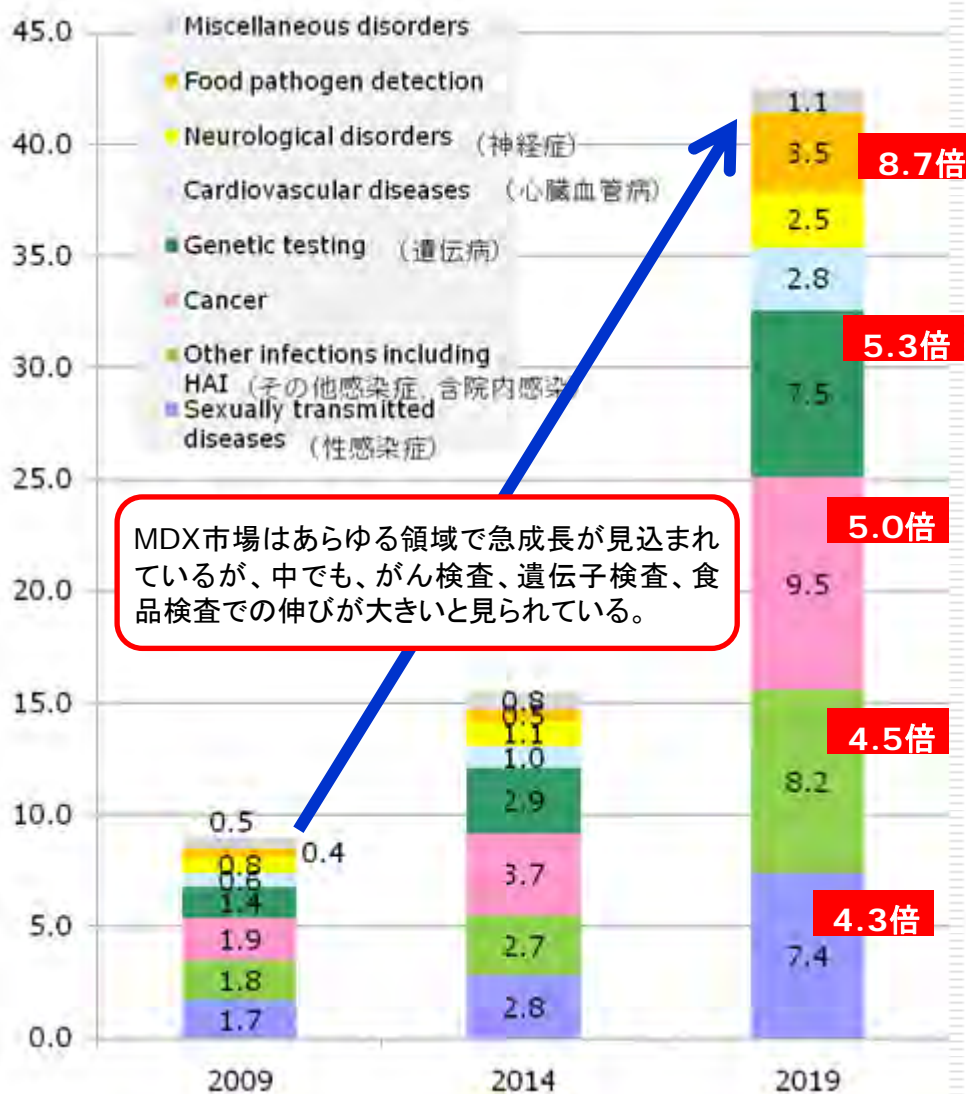
■ **(前処理の再認識)** 次世代シーケンサーなど解析技術の高度化で、精度を含め前処理工程の重要性が再認識されている。

# II-1 診断市場成長予測（2009年—2019年）



参考文献: *Jain PharmaBiotech, "Molecular Diagnostics", October 2010*

# 診断市場成長予測: 分子診断市場

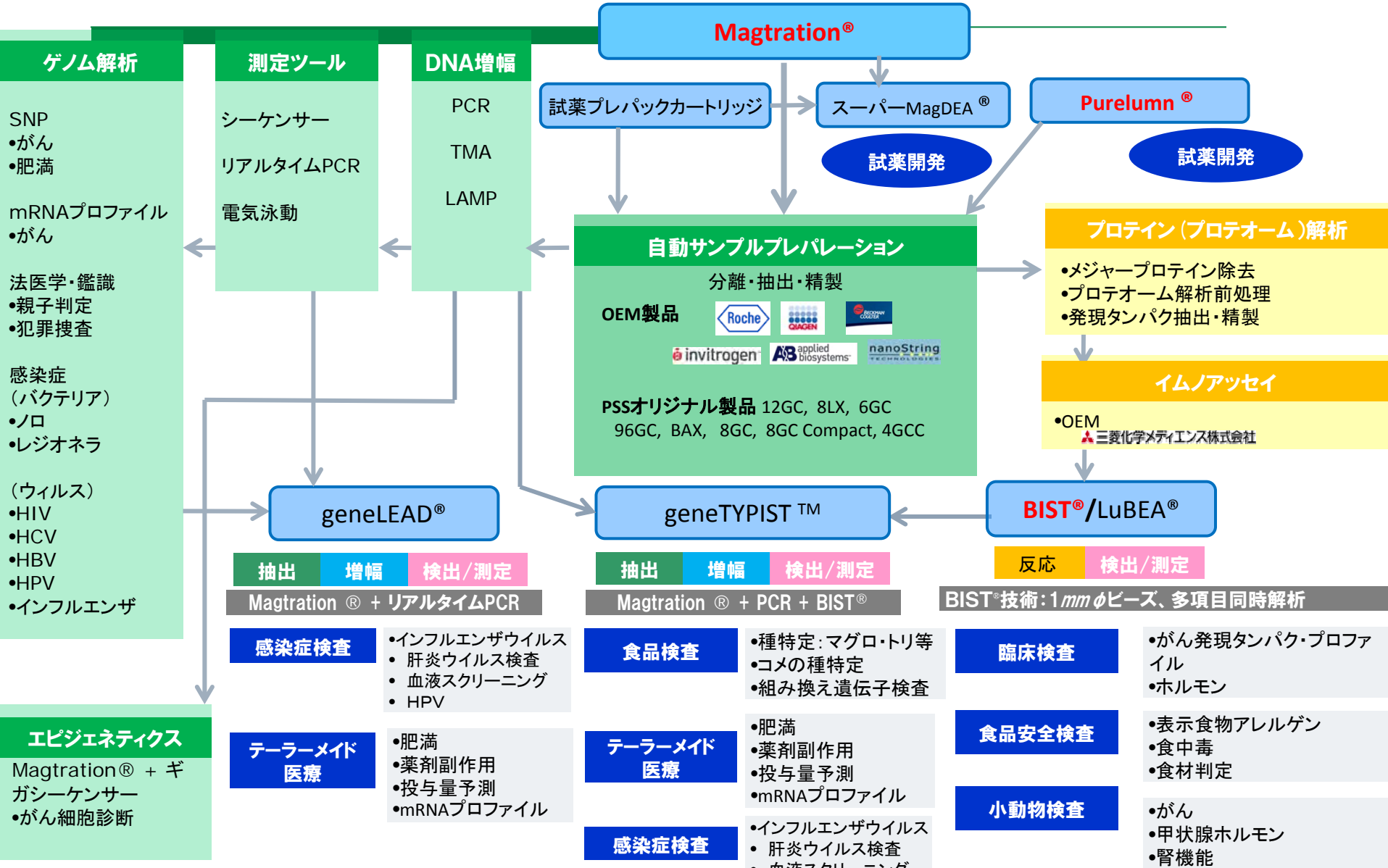


# PSSが目指すシステム化と分野

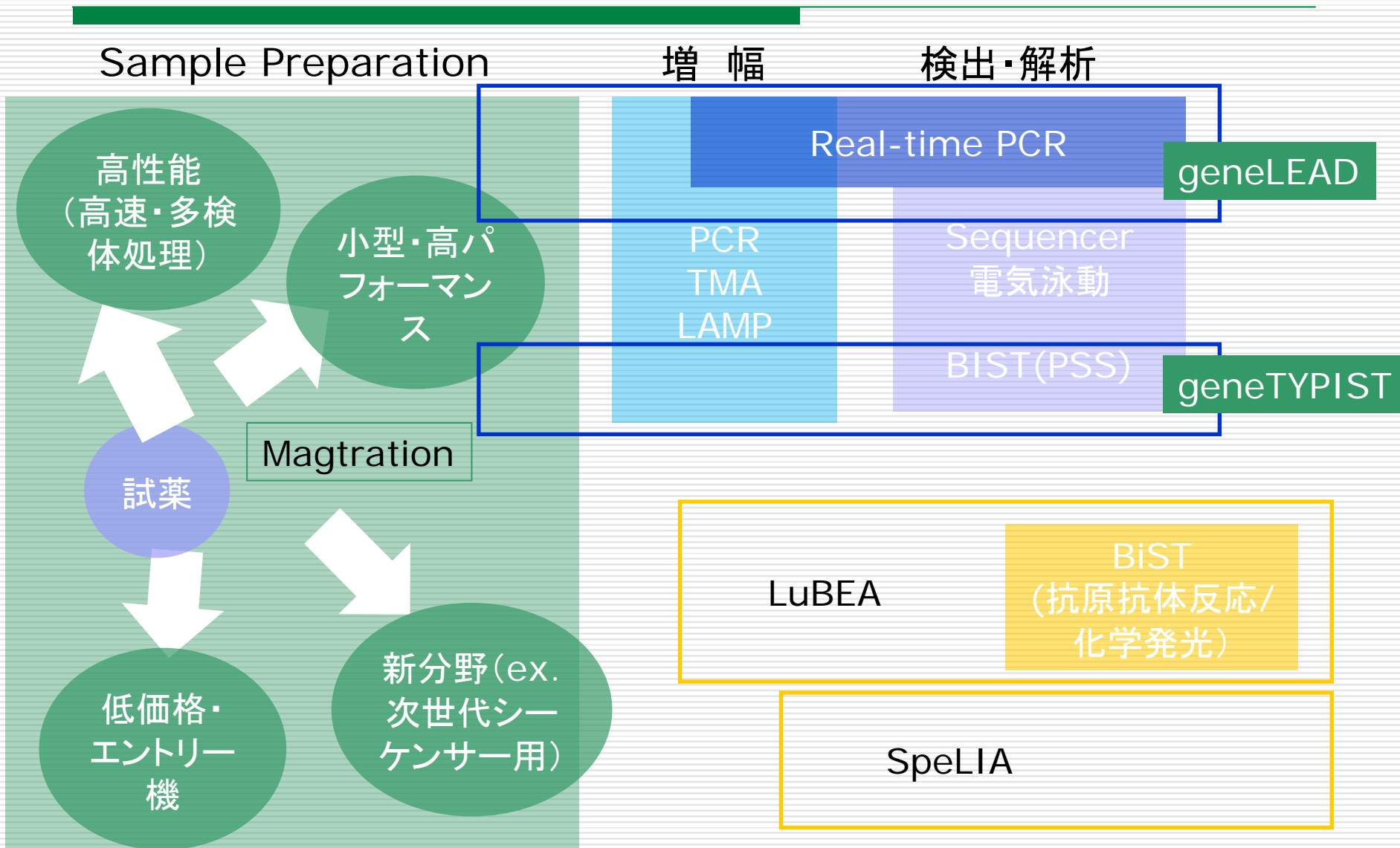
業界の技術分野  
(DNA・遺伝子)

業界の技術分野  
(たんぱく・免疫)

PSSの基本技術/製品



# マーケットとPSS事業展開



# PSS技術の対象となる遺伝子検査(PGx)

## 体細胞変異検査(遺伝子変異)

標的分子そのもの、あるいは、がん細胞増殖やアポトーシス回避に関わるシグナル伝達系の分子に生じる変異が薬物の応答性を左右するもので、予測の精度は高い

### ●EGFR 遺伝子変異検査 (2007年保険収載)

EGFR-TKI のゲフィチニブの応答性予測

※EGFR 遺伝子に変異のある患者で効果が高い

### ●KRAS 遺伝子変異診断 (2010年保険収載)

EGFR 抗体薬セツキシマブの応答性予測

※KRAS 遺伝子に変異があると、自ら細胞増殖の指令を出すようになるため、EGFR 結合を抑えても効果が見込めない。

## 遺伝子多型検査

エビデンスは明確であるが、臨床的有用性は十分とはまだ言い切れない状況

### ●UGT1A1遺伝子多型検査 (2008年保険収載)

抗癌剤イリノテカンの代謝に關与するUDPグルクロン遺伝子多型UGT1A1により、副作用発現の予測と安全で効率的な抗癌剤治療の補則。

### ●IL28B遺伝子多型検査 (2010年保険収載)

C型慢性肝炎のペグインターフェロン+リバビリン併用の有用性をIL28B(インターフェロンλ)領域遺伝子多型で検査で予測(マイナーアレルの場合、効果が望めない)。

### ●CYP2C9, VKORC1遺伝子多型 (先進医療)

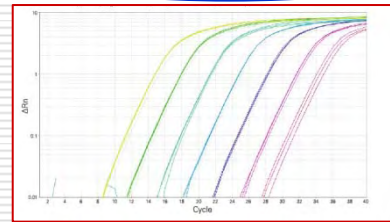
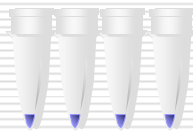
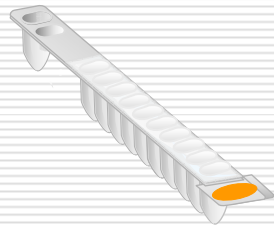
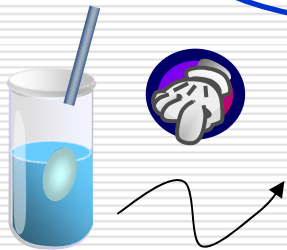
抗凝固薬ワルファリンの投与量と副作用の予測

# geneLEAD<sup>®</sup>

## 小型全自動遺伝子解析装置

実用化に向け、多検体同時処理が可能な high-throughput タイプの開発中

2つの確立された技術を結集



全自動  
ウィルス感染症



# LuBEA®

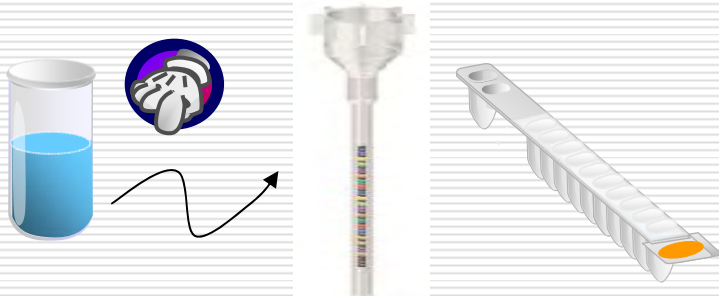
## 全自動多項目同時解析装置

### BIST技術によるMultiAutoELISA®

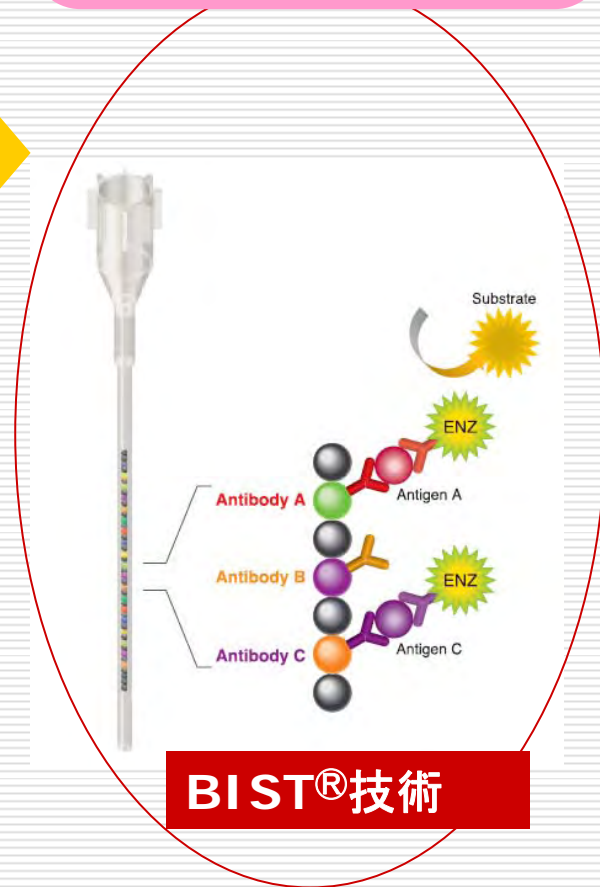
検体調整

抗原抗体反応  
BIST®

検出・解析  
BIST® (化学発光)



実用化に向け、多検体同時処理が可能な high-throughput タイプの開発中



全自動 食物アレルギー  
食品検査



BIST®技術

# geneTYPIST

## 全自動多項目同時遺伝子解析装置

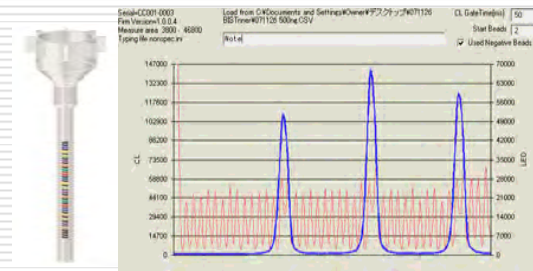
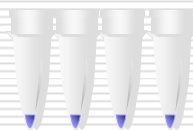
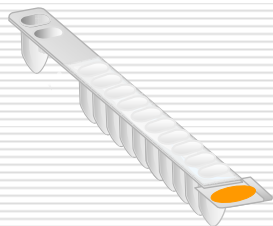
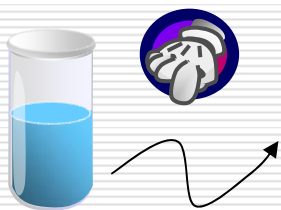
BIST技術によるMultiplex DNA Typing

検体  
調整

抽出・精製  
Magtration®

DNA増幅  
PCR

検出・解析  
BIST®



全自動  
マグロ  
種・産地特定



# SpeLIA 小型生化学分析装置

全自動

多項目

## ■ 開発予定検査項目

イヌCRP、ネコSAA  
 $\alpha$ 1-AG、FDP  
ATIII、尿中 $\mu$ Alb  
TBA、NH<sub>3</sub>

## ■ 全自動

## ■ 省スペース

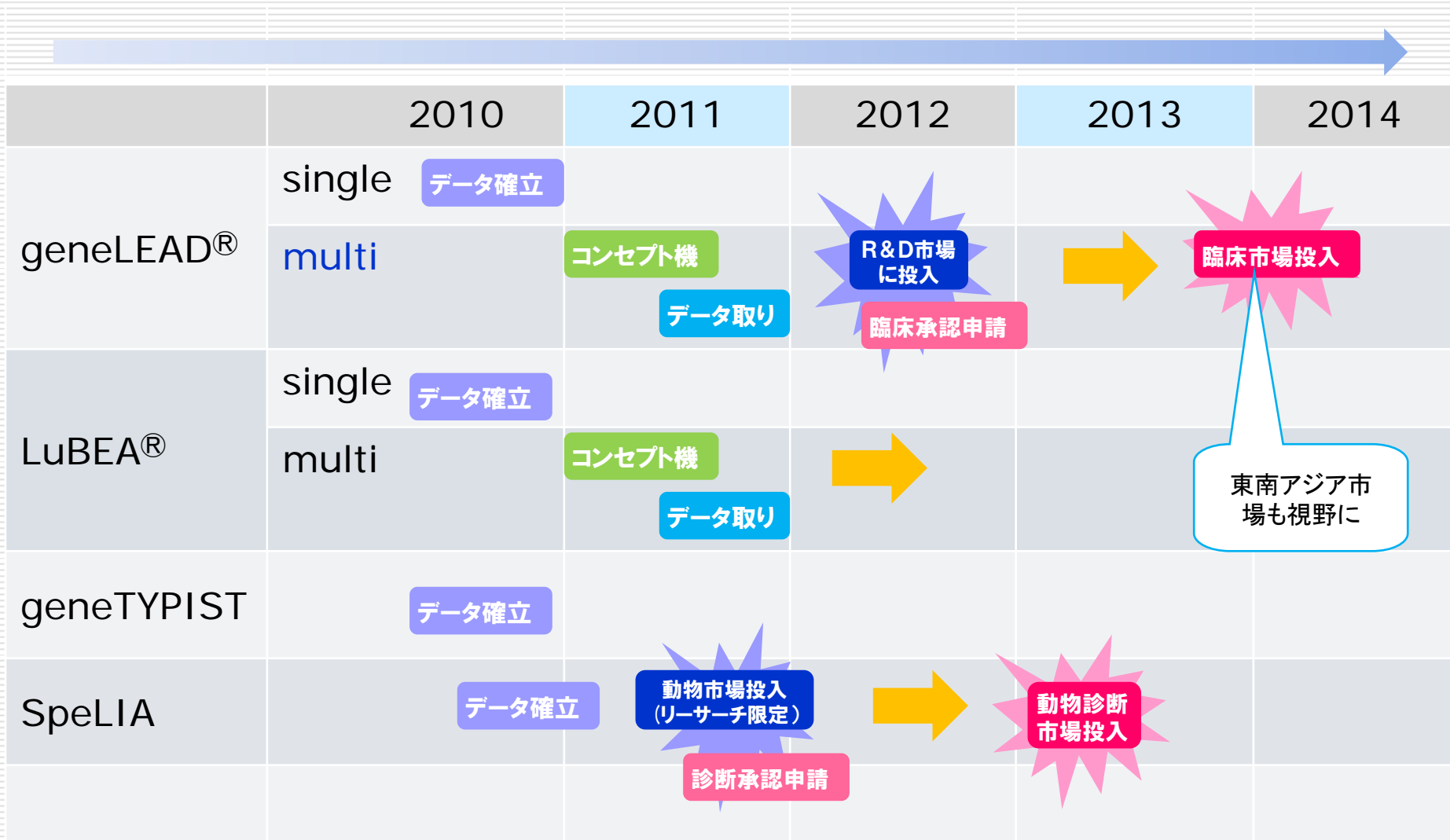
## ■ 2011年から市場投入

## ■ 多項目/多検体同時処理

4検体・1項目～4項目・1検体



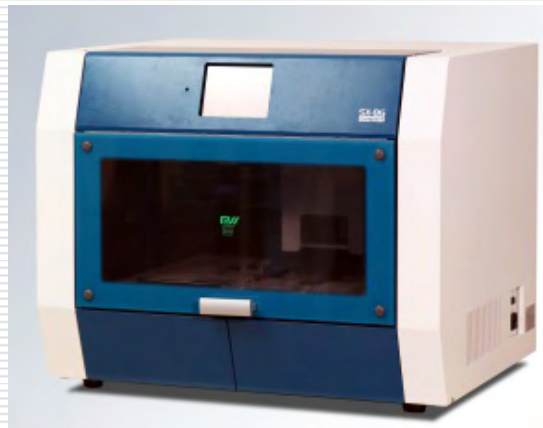
# 全自動解析装置の市場展開工程



# 多様化する市場ニーズへの対応

## (1) SX-8G Compact

- 次世代シーケンサー（高速、安価な塩基配列解析機）向け、前処理自動化装置としてSX-8G Compactを投入
- SX-8G Compactの販売に関し、IntegenX社と提携
  - ソフトウェアの共同開発
  - 共同ブランド展開



## (2) 次世代シーケンサー前処理試薬開発で合意

- NorDiag社(ノルウェー)と次世代シーケンサーによる塩基配列解析向けサンプル調製試薬およびSX-8G Compact向けプロトコールの開発、試薬販売で合意。
- NorDiag社が試薬及びプロトコール開発を行い、第三者機関により性能評価を行った後、SX-8G Compactに搭載。
- PSSは次世代型シーケンサー市場に対し、
  - ①前処理自動化装置とともに、
  - ②その試薬でも参入

### (3) インドで抽出試薬製造を開始

- 抽出試薬の価格競争力強化のため、インド(ムンバイ近郊)で、販売契約先(Biotron社)を通じて試薬製造を開始し、インド市場への本格参入  
今回製造を開始するのは、
  - ① PSS製DNA/RNA自動抽出装置用のプレパック抽出試薬
  - ② エントリー市場向け、マニュアル抽出用試薬
- PSSが原料を供給し、インドで、インド国内市場向けに最終製品化。PSSが、試薬製造、品質管理で技術支援し、2011年3月に製造開始予定。



---

本日は、お忙しいところ、PSS事業概要の説明機会を頂きまして、誠に、ありがとうございます。今後とも、ご理解、ご支援をたまわりますよう、なにとぞ、よろしく、お願い申し上げます。

なお、本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2011年3月4日  
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
[URL : www.pss.co.jp](http://www.pss.co.jp)

(お問い合わせは、IR・社長室まで)  
電話：047-303-4800  
メール：ir@pss.co.jp